

新たな学校づくり

【2 地域拠点としての学校施設について】

①指定避難場所・一次避難所としての学校施設について

- (1)災害時の学校施設の位置付け
- (2)指定避難場所・一時避難所の現状(八小・全体)
- (3)現状・課題・対応方針の整理

②地域開放について

- (1)地域開放の現状
- (2)現状・課題・対応方針の整理
- (3)地域開放のニーズ把握

③複合化について

- (1)複合化の事例
- (2)複合化の課題

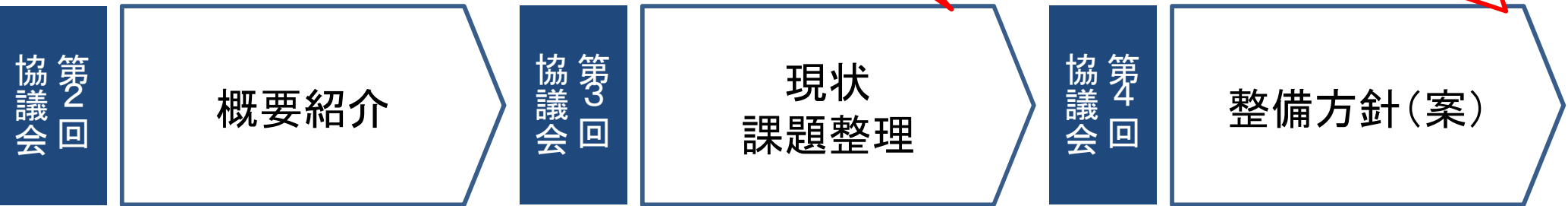
指定避難場所・一次避難所としての学校施設検討の進め方

【協議会での議論のポイント】

- ・現状と課題の共有
- ・委員目線の課題など意見徴収

【協議会での議論のポイント】

- ・整備方針に関する意見徴収



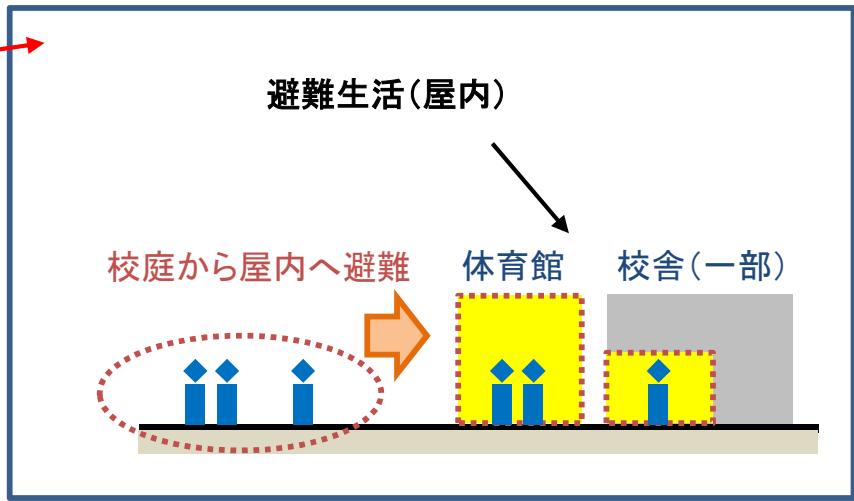
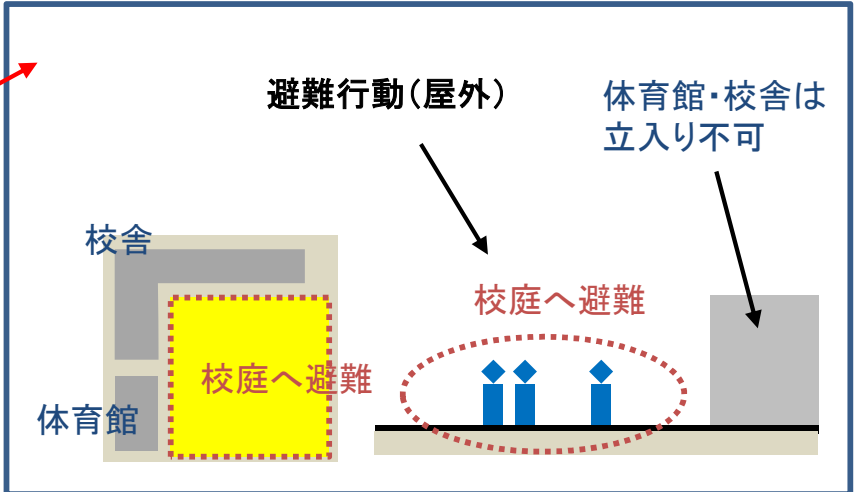
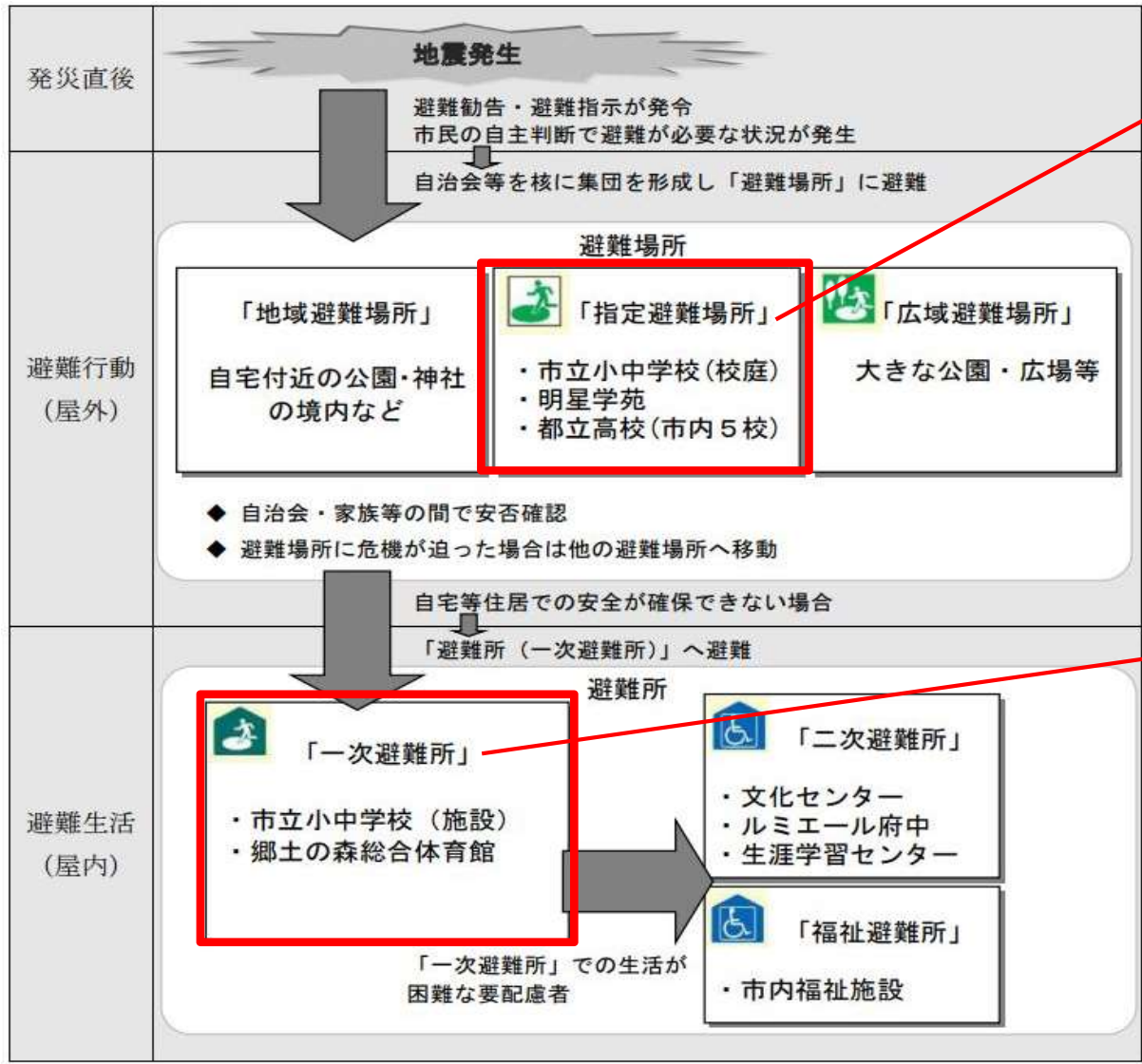
第2回協議会で提示済

- 一次避難所としての位置付け
- 避難場所・避難所の整備状況

(整備方針のポイント)

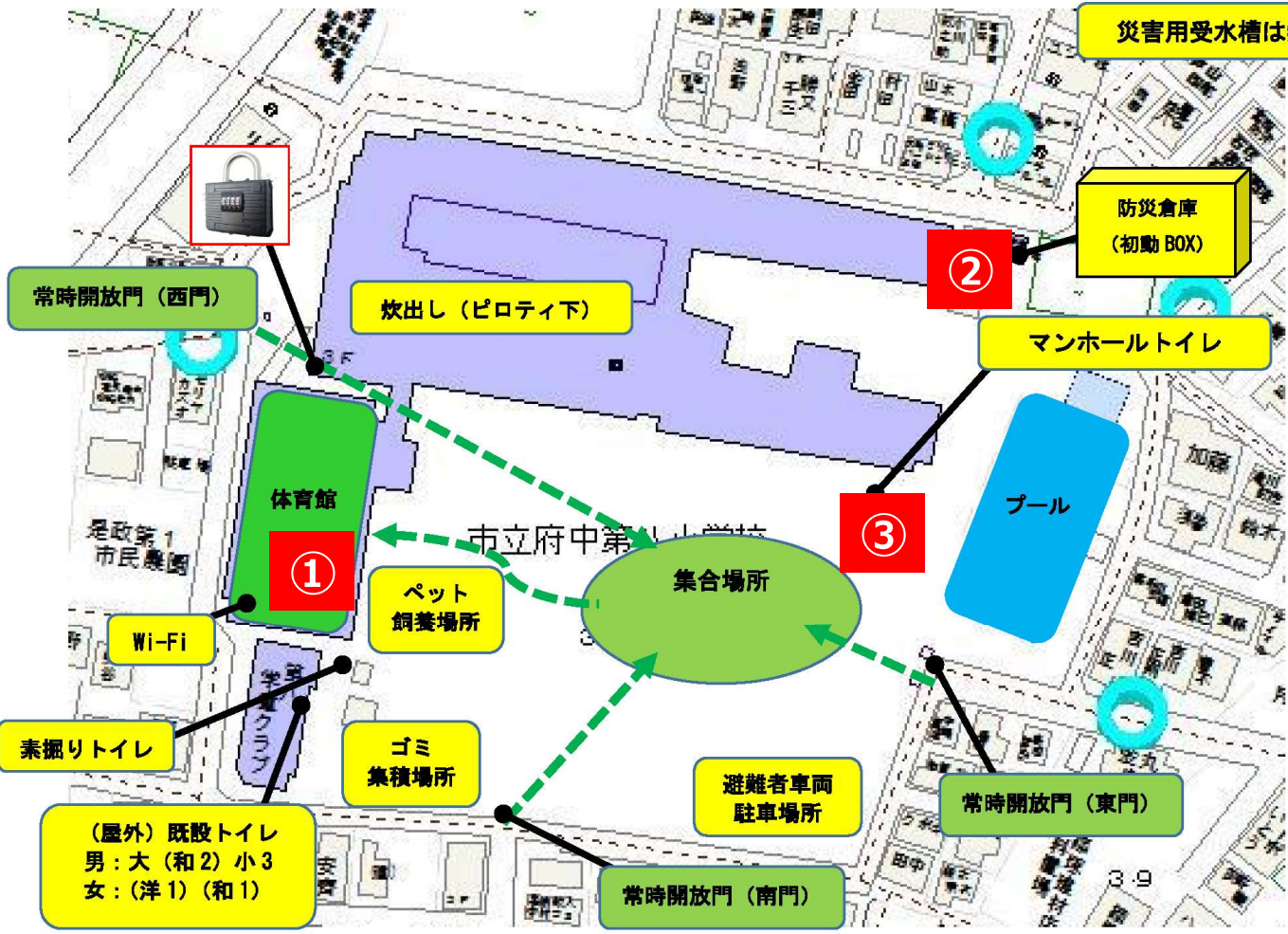
- 避難所運営として最低限必要な設備
- 災害時の避難所運営を想定した配置計画
- セキュリティを考慮した、一次避難所の開放範囲
- バリアフリー化

災害時の学校施設の位置付け



出典：府中市防災会議／府中市地域防災計画(平成29年度)

現状の整備状況(八小の場合)



- 現状①体育館**
 - ・洋便器、障害者用トイレがない
 - ・テレビのアンテナが引き込まれていない
 - ・入口にスペース・管理室等がない
 - ・間仕切りがない
- 現状②防災倉庫**
 - ・体育館と離れて設置されている
- 現状③マンホールトイレ**
 - ・体育館から離れている

災害時の電気の供給について(八小の場合)

電力会社の電力供給が停止した場合は、校舎・体育館他、全ての電力が停止します。復旧は電力会社の対応となり、阪神淡路大震災及び東日本大震災において津波被害を受けていない東北地方の停電復旧は1週間で概ね90%の復旧率となっています。(府中市防災ハンドブック)



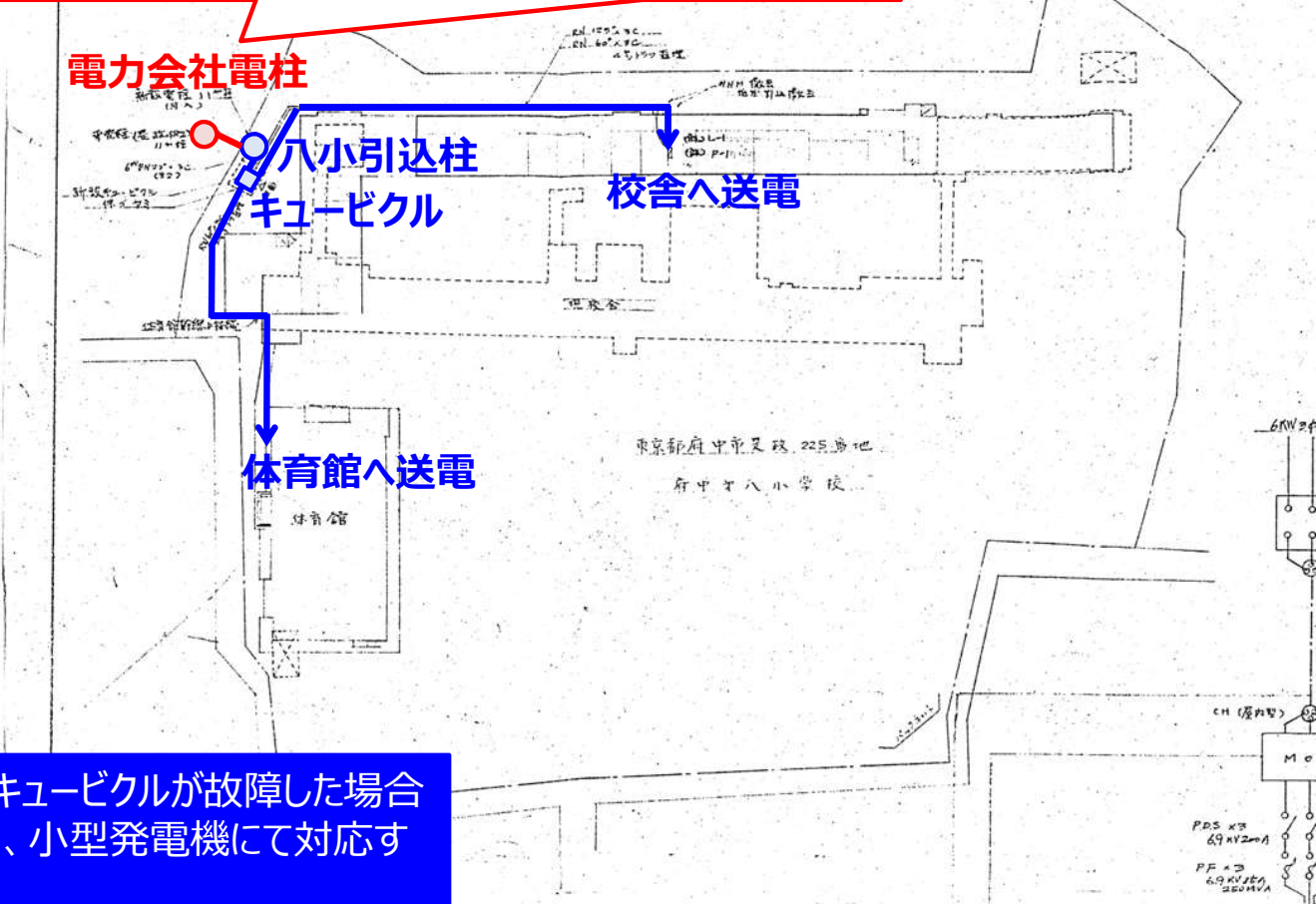
キュービクル (写真)

電力会社電柱

八小引込柱
キュービクル

校舎へ送電

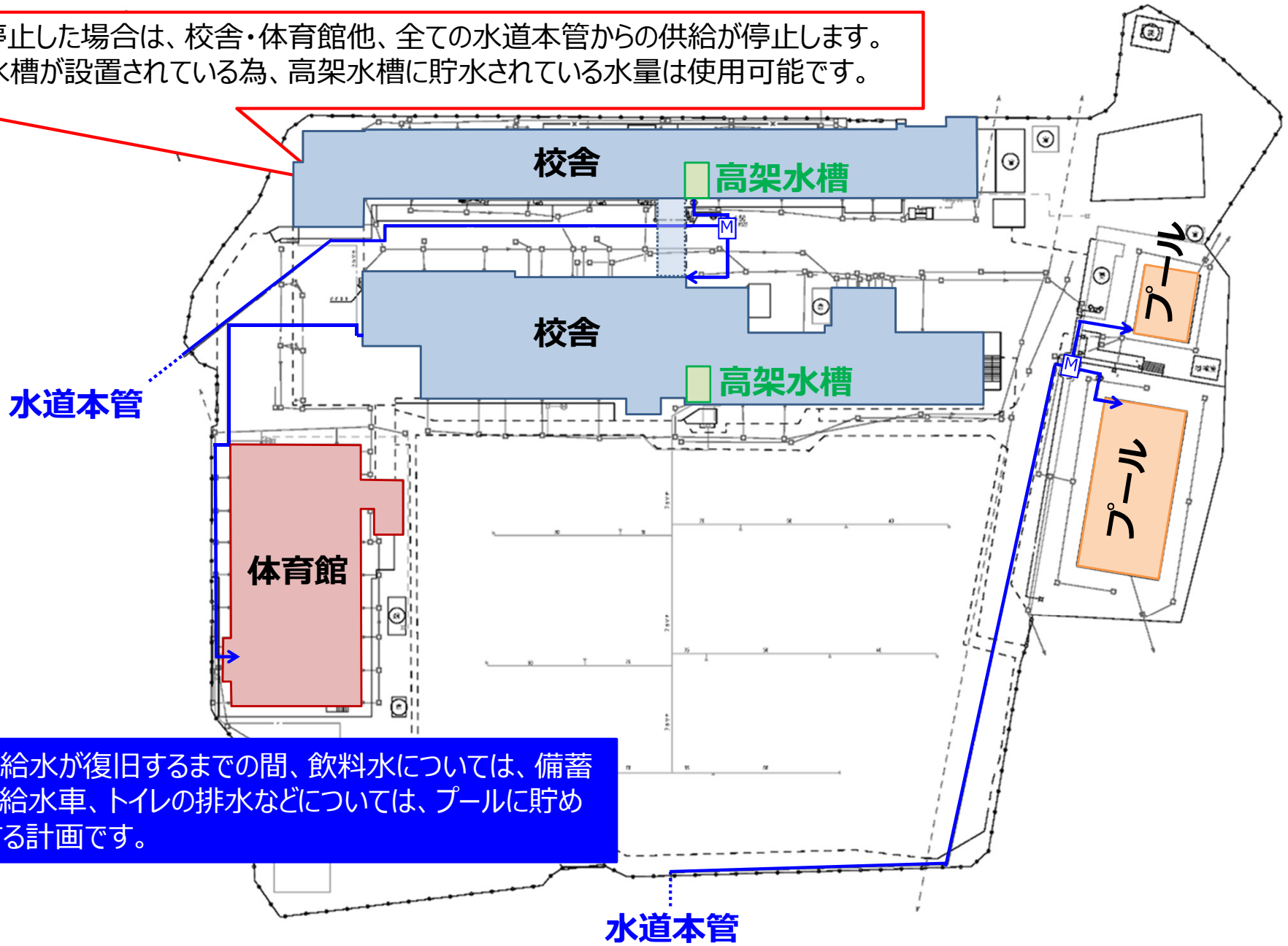
体育館へ送電



- ・電力会社の電力供給が停止した場合やキュービクルが故障した場合は、電力会社や学校側での復旧作業の間、小型発電機にて対応する計画です。
- ・八小はガス発電機×1台・ガソリン発電機×1台が備蓄されています。

災害時の飲料水等の供給について(八小の場合)

水道本管の供給が停止した場合は、校舎・体育館他、全ての水道本管からの供給が停止します。ただし、屋上に高架水槽が設置されている為、高架水槽に貯水されている水量は使用可能です。



・水道本管からの給水が復旧するまでの間、飲料水については、備蓄したペットボトルや給水車、トイレの排水などについては、プールに貯めた水などで対応する計画です。

避難者が使用できるトイレ

主な設置場所	種別	学校	形式/個数	処理方法
避難所内	体育館 トイレ	小学校	男:和便器/1 女:和便器/1	下水処理
		中学校	男:小便器/1、洋便器/1 女:洋便器/1	
避難所の外 (校庭付近など)	屋外常設 トイレ (校庭用)	小学校	男:小便器/2~3、和便器/1 女:和便器/1~2 ※女子で一部洋便器設置校あり	下水処理
		中学校	男:小便器/2~4、和便器/1 女:和便器/1~4 ※男女で一部洋便器設置校あり	
	ポータブル トイレ	小学校	男女兼用:洋便器/1	タンクに貯留後、 くみ取り処理
		中学校	男女兼用:洋便器/3	
	マンホール トイレ	小学校	男女兼用:洋便器/2 (うち1器が車いす対応)	袋に貯留後、 くみ取り処理
		中学校	男女兼用:洋便器/6 (うち2器が車いす対応)	

現状・課題・対応方針の整理

	現状	問題	課題	対応方針
1	<ul style="list-style-type: none"> ①非常用電源はガス発電機1台しか備蓄がない ②体育館のトイレに洋便器・障害者用トイレがない ③外のトイレが避難所から離れている ④小学校はマンホールトイレ用の大型便槽がない ⑤体育館にテレビアンテナが引き込まれていない 	<ul style="list-style-type: none"> ①初動期に最低限必要な電力が確保されていない ②高齢者や障害者が体育館のトイレを使えない ③避難所からのトイレ利用が大変である(特に夜間) ④汚物を貯留することができない ⑤情報が得られないと避難者の不安が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> ①照明・通信など初動に必要な電力の確保が求められる ②誰もが利用できるトイレにする必要がある ③避難所の利用を想定した配置を考える必要がある ④数日間汚物を貯留できるようにする必要がある ⑤避難者に情報を届ける必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営として、必要な最低限のライフライン設備を備える
2	<ul style="list-style-type: none"> ①体育館入口にスペース・管理室等がない ②防災倉庫が体育館と離れて設置されている 	<ul style="list-style-type: none"> ①避難所の運営やセキュリティチェックが行えない ②備蓄品を運ぶために労力、時間がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ①避難所・避難者の管理を行うスペースの確保が必要 ②避難所の利用を想定した配置を考える必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難所運営を想定した配置計画とする
3	<ul style="list-style-type: none"> ①避難所として利用できるのは原則として、体育館だけである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症患者を隔離できない ・乳幼児を持つ女性や高齢者などに配慮できない 	<p>体育館以外にも専用スペースの拡張が必要となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティを考慮し、一次避難所の開放範囲を検討する
4	<ul style="list-style-type: none"> ①校庭や施設には階段や段差がある ②体育館が2階以上や地下にある学校がある 	<p>高齢者や足の不自由な方は避難所が利用できない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①要配慮者に配慮した施設整備や工夫が求められる ②体育館以外にも専用スペースの拡張が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー化を図る

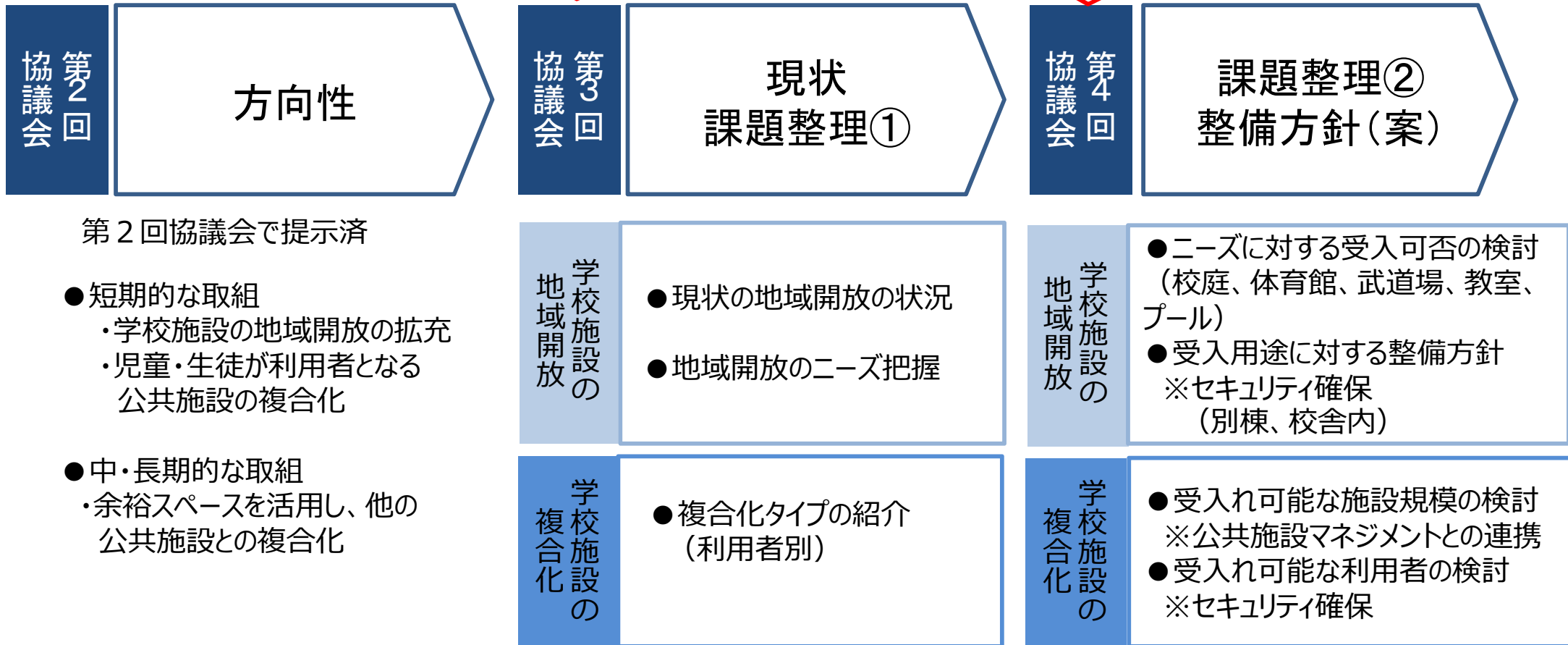
学校施設の「地域開放」と「複合化」の検討の進め方

【協議会での議論のポイント】

- ・現状と課題の共有
- ・委員目線の課題など意見徴収

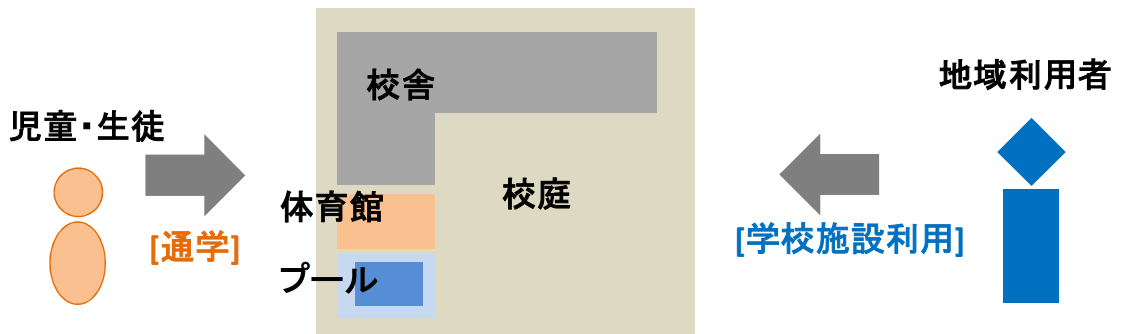
【協議会での議論のポイント】

- ・委員目線の課題など意見徴収
- ・整備方針に関する意見徴収

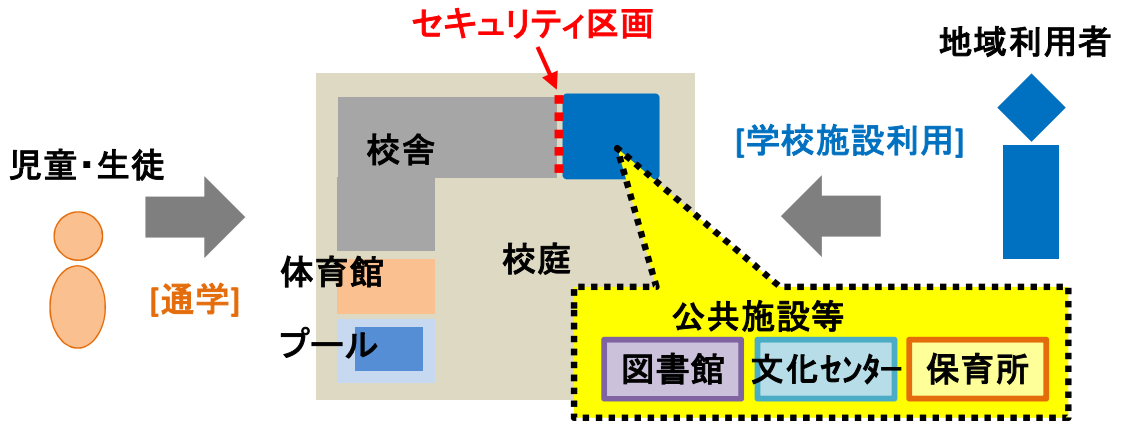


学校施設の「地域開放」と「複合化」の違い

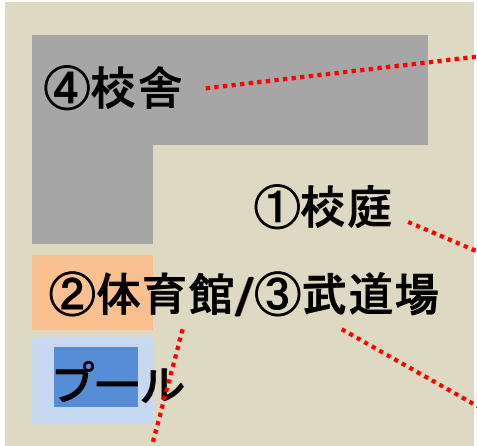
■ **地域開放**: 学校教育上支障の無い範囲(平日放課後、休日など)で、**学校施設の機能をそのまま地域に開放**すること



■ **複合化**: 学校敷地内に**別の施設・機能を設置**すること
児童・生徒が使用している日中も利用可能



学校施設の「地域開放」の現状



④校舎(教室など)

活用されていない

※ただし、一部の学校では楽焼小屋、音楽室、家庭科室などの開放実績がある

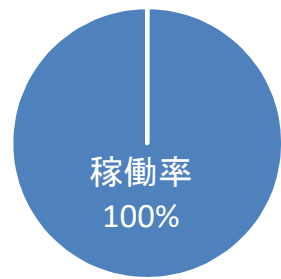
①校庭(日中)

活用されている

平日 小: 不可(授業)
中: 不可(授業)

休日 小: 8時~17時
中: 不可(部活動)

1週間あたりの稼働率(小)



※また、夜間照明が設置されている4校(日新小、一中、二中、七中)では、夜間の時間帯も活用されている

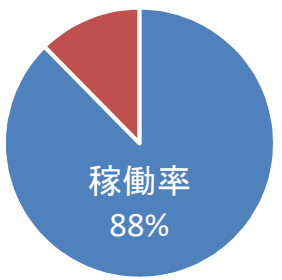
プールについては、公共施設マネジメントの取組みの中で、市民ニーズの把握に努めていく

②体育館

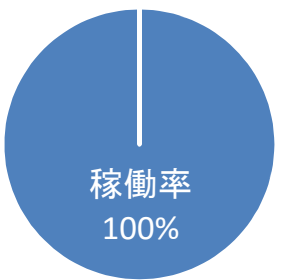
- ・小学校は授業のない時間帯で開放
- ・中学校は授業・部活動のない時間帯で開放

活用されている

1週間あたりの稼働率(小)



1週間あたりの稼働率(中)



平日 小: 17時~21時
中: 19時~21時

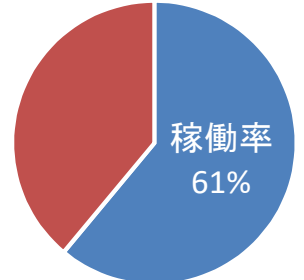
休日 小: 8時~21時
中: 19時~21時

③武道場

- ・武道場は中学校のみ設置
- ・授業・部活動のない時間帯で開放

活用されている

1週間あたりの稼働率(中)



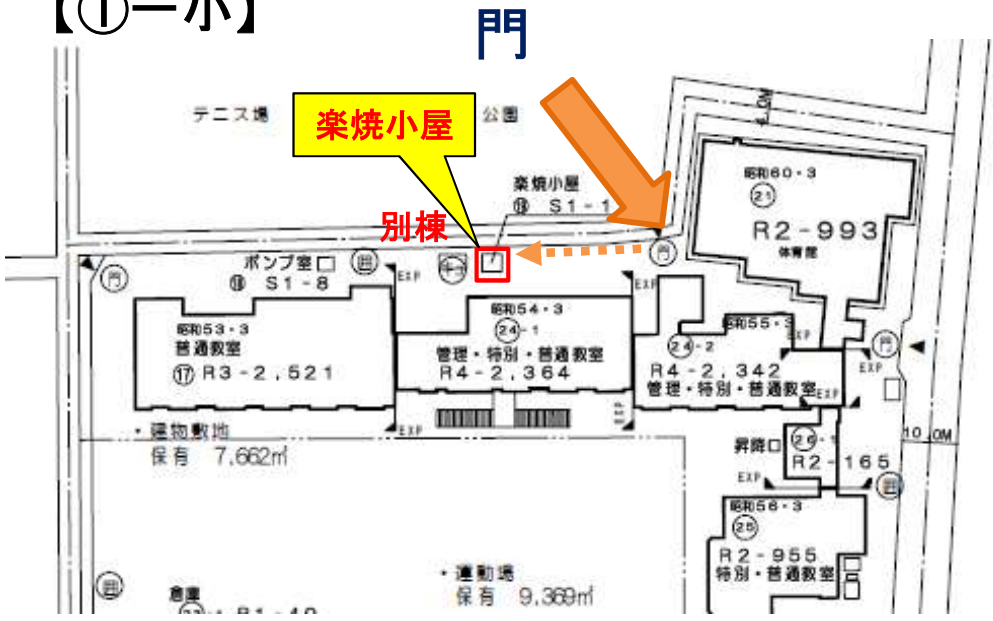
平日 中: 19時~21時

休日 中: 19時~21時

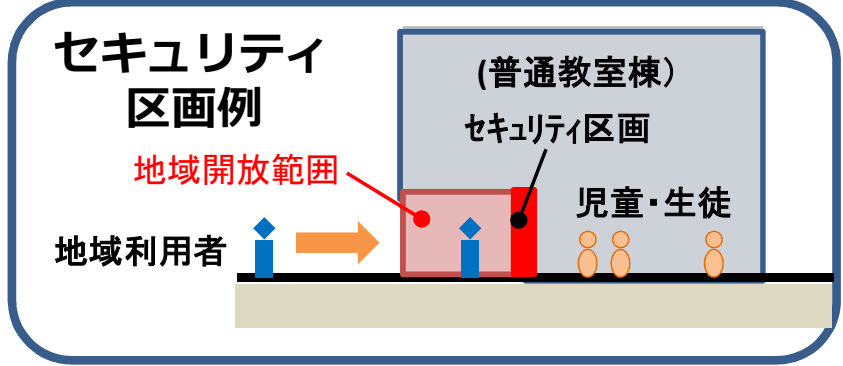
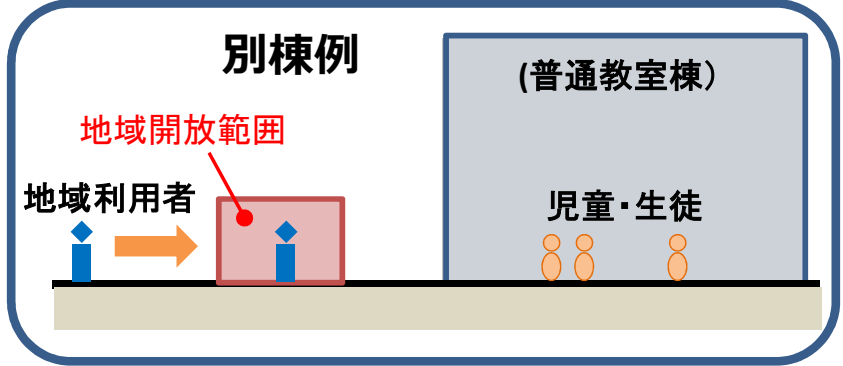
校舎の「地域開放」の事例

- ①校庭に「楽焼小屋」を別棟で設置している(一小)
- ②1階「音楽室」はセコム施錠とセキュリティ区画で管理できる(浅間中)

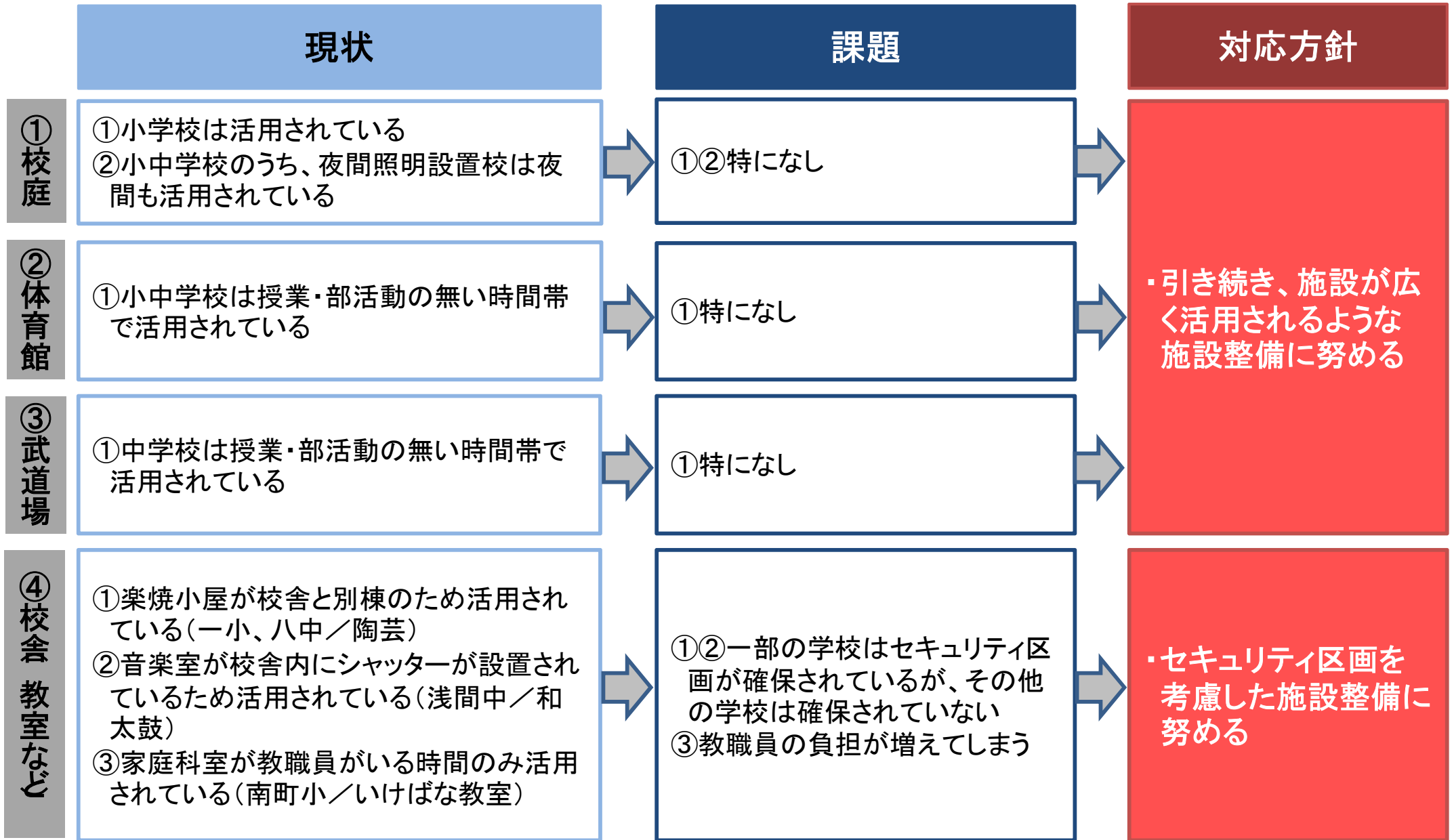
【①一小】



【②浅間中】



現状・課題・対応方針の整理



学校施設の「地域開放」のニーズ（他市事例）

■地域開放の可能性がある学校施設の例

分野	諸室
スポーツ	校庭、体育館、武道場、プール、テニスコート
学習・教育	理科室、視聴覚室、コンピュータ室
趣味	音楽室、家庭科室、図工室、美術室、技術室、和太鼓室、陶芸室、楽焼小屋、和室
集会	会議室、ランチルーム、オープンスペース、多目的室、児童会・生徒会室、PTA室

調布市立調和小学校



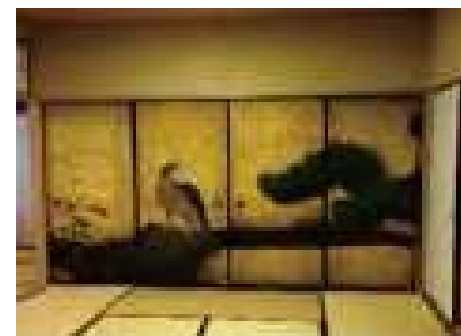
屋内温水プール

千代田区立昌平小学校



多目的ホール

京都市立京都御池中学校



和室

学校施設の「複合化」の事例と府中市の検討課題

利用者	複合化対象として検討される施設 ※下線は立川第一小学校の複合化事例
①児童・生徒	<u>学童クラブ</u> 、放課後子ども教室
②特定利用者	保育所、幼稚園、子育て支援センター、特別養護老人ホーム、地域包括支援センター、障害者支援施設、消防団分団小屋など
③不特定利用者	行政機関(住民票交付などの窓口施設)、公民館(講堂・会議室など)、調理室、 <u>学習室</u> 、 <u>図書館</u> 、プール、体育館、野球場、サッカー場、庭球場、美術館、博物館、音楽練習室、コンサートホール、保健センター、民間施設(飲食・物販・コンビニ)など

「立川第一小学校」の場合



外観写真(市教育委員会HPより)

- ①学習館、図書館、学童クラブを併設。
- ②学校との共有スペースとして陶芸室併設、学校図書室と図書館を隣り合わせに配置。

[柴崎学習館内の施設一覧]

施設名	定員	広さ	備考
ホール	300人	約391平方メートル	
第2視聴覚室(ホール控室)	30人	約68平方メートル	専用トイレ有 電子ピアノ
第1視聴覚室	50人	約87平方メートル	机付きのイス36脚
第1教室	24人	約58平方メートル	机12台、イス24脚
第2教室	24人	約44平方メートル	机12台、イス24脚
健康サロン	35人	約87平方メートル	裸足、上履きでの利用
和室	15人	約30平方メートル(12.5畳)	
調理室	32人	約97平方メートル	調理台5台、テーブル3台
作業室	32人	約97平方メートル	作業台7台

府中市の検討課題

①施設規模：限られた校地で学校以外の機能をどこまで受け入れられるか。

②利用者：子どもたちの安全をどのように確保するか。